

人口減少の続く

狭山の今後を問う

大島 政教 議員
(無所属)

◆市長は狭山市駅西口を整備し、街のぎわいをつくり、人口減少に歯止めをかけたいと、市議会でも発言してきたが、「人口減少に歯止めをかけたい」との基本構想は、どのような見通しの上に立てたものか。

◆市長 少子高齢化がますます進むと見込まれていることから、第3次総合振興計画基本構想の27年度における将来推計人口をおおむね15万4千人、22年度からの5年間に4千人が減少するものと18年に見直した。こうした推計を踏まえ、定住化や人口転入を促進するため、安全で魅力あるまちづくりを通してにぎわいの形成を図る都市基盤整備や、子育て支援の充実などの施策を総合的に進め、人口減少に歯止めをかけたいと考えている。

◆祇園保育所の民営化の説明会で保護者説明会より、これまで公設民営化の要望は出されていないか。

市長答弁にあつたように、当初の西口駅前整備での街のぎわいに、子育て支援—こども医療費の中学卒業までの延長が加わっています。

それまで、お金が無くてできないとしていた、こども医療費の拡充を市長選の最中に公約したわけですから、その一方で巨額な工事費のかかる西口整

備を身の丈に合ったものに見直すべきでした。

291億円の再開発事業費の95%が税金であったことが、市民の暮らし、市政を圧迫しています。

保育行政こそ当事者と市が一緒になつてつくっていくことがとりわけ重要です。今の経済状況、保育所の絶対的不足に照らしても市立祇園保育所を公設公営での運営を重ねて要望します。

◆福祉部長 保護者懇談会では、公設民営化の方針について理解をいただくと、さまざまな説明をしているが、出席した保護者からいろいろな意見を聞く中では、引き続き直営での運営を希望するという意見も出されている。



高齢者支援について

加賀谷 勉 議員
(公明党)

◆高齢者のセーフティネットの確立 ①市民の5人に1人は高齢者となっている現状で、市の行う事業の全てにおいて、高齢者への配慮が求められるが、高齢者に対する支援について現状と課題をどのように認識しているか ②緊急通報サービス事業の拡充と推進について

③緊急医療情報キットの早期導入を強く求めるが、実施に当たり、対象年齢や要件、実施時期や配布の方法をどのように考えているか ④ひとり暮らし高齢者の安否確認は、特に高齢者サービスや介護サービスの提供を受けていない方や地域と疎遠である方などに生活上のトラブルが発生する可能性があるが、そのような方への支援が必要だと考えるが見解は ⑤緊急事態の早期発見および緊急連絡体制を整備すべく「要援護高齢者等支援ネットワーク」の形成を進めているとのことだが、進捗状況は

◆市長 ①高齢者自身の自助や身近な関係者による互助を基に、地域の方々の共助が重要で、さらなる仕組みづくりと行政による公助が必要と考える。現在の取り組みに加え、要援護高齢者を



支援する体制づくりを指示しており、今後も住みなれた地域で高齢者が安心して暮らせるよう支援していく。

◆福祉部長 ②民生委員の高齢者世帯調査で対象の約1万1千世帯に説明を行った。身内の方にも知ってもらうことが重要であり、周知に努める。外出時でも使えるシステムは、この制度が単身高齢者の居宅での状況に着目した事業であり、現行の方法で進めていく。③65歳以上の単身者、高齢者のみの世帯、日中独居の高齢者に、救急担当や医師の意見を参考にして早期に実施したい。配布方法は、民生委員や地域包括支援センターなどと協議していく。④多くの視点での見守りが重要で、高齢者が孤立しないよう、要援護高齢者等支援ネットワークの形成を進めている。

⑤自治会連合会、民生委員、児童委員協議会などから参加同意が得られ、各自治会への説明も終了した。今後は、民間企業や新聞販売店、日本郵便などに協力を要請し、市民にも周知していく。

◆消防長 ③救急隊が傷病者に医療情報を聴取しているが、容体によっては情報が取れない場合もあり、救急医療情報キットを活用したい。

5年以内に スポーツ施設整備を！

中川 浩 議員
(無所属)

市民は、行政・政治に対して「閉塞感」を感じている。税金の使い方を改め、どんな時代でも、夢や希望を持てるようにしていかなければ。

◆スポーツ施設を本気で整備する考えは5年間の目途

15万人もの人口で狭山市は、野球・サッカー・陸上競技場の公式の競技施設が一つも無い。こんな市は、なかなか無いのでは。市の年間予算は460億円で狭山市駅西口に合計66億円の公共施設を建設するお金はあつて、スポーツ施設の建設費15億円のお金は無いのか。これまで何度となく質問してきたが、来期出馬表明した市長の考えは。

◆市長 公式競技場の建設には財源と用地の確保が課題である。昨年策定したスポーツ振興基本計画では、新たな屋外スポーツ施設の整備について、民間活力の導入も視野に入れた推進を、また、総合振興計画の後期基本計画でも整備を図ることとしている。

◆河川敷にパーベキューのための排水施設整備を

◆市長 市が管理する河川敷公園は、条例で火器の使用は制限しているが、環境への配慮、他の利用者や周辺住民へ迷惑を及ぼさないなどマナーを守れば



狭山市駅西口
送迎車の停車場所

利用は可能。水質汚濁やごみの放置、騒音など課題も多いことから、先進市などの事例を踏まえて検討していく。

◆建設部長 パーベキューの排水は油分が多いため、公共下水に排水するのが好ましいが、河川敷は人家もないことから公共下水は難しいと思っている。

◆こども動物園

◆来場者に喜んでもらえる施設改善計画は建設部長 展示動物のあり方や修繕を含めた、施設の改修計画の策定を指定管理者に依頼している。提案の中で、今後、集客能力のアップにつなげたい。

◆街路樹・公園・河川敷

◆市長 街路公園などで、清掃や美化管理などを実施しているが、近年は緑化管理などにも市民参加の意識も高まっております。協働による活動をさらに広めていきたい。

◆狭山市駅西口

◆送迎用車両の停車場所をどうするのか まちづくり推進部長 これまで使用していた、人間市駅・稲荷山公園駅行きのバス停付近の道路沿いに、荷さばきスペースを設けることを計画しており、完成すれば2台から4台程度は一時的な乗降場所にご利用できると考えている。

一般質問

安心安全な町に／

雨水・道路対策

齋藤 誠 議員
(公明党)

◆近年、都市部において、下水道などの排水施設の整備水準を超える集中豪雨が増え、しばしば浸水被害などが発生している。当市でも短時間の集中豪雨で、道路が川のような状態になっている地域も決して少なくない。局所的ではあるが、雨水の勢いで床上まで浸水被害が発生している。この状況を市長はどのようにお考えか。また現状にどう対応しているか。

◆市長 豪雨の増加による浸水の不安を解消し、安全で安心なまちづくりを進めることは、都市基盤整備の基本と認識している。局所的な浸水箇所への対応や浸水被害には、市民との協働で対策に万全を期す必要があると考える。

◆道路が冠水状態になる地域の住民の声として、まさに「川状態」になっているその現場を「ぜひ市の担当者が見に来てほしい」と言われます。これらの声にどう対応するのか。

◆建設部長 応急対応などで人員や資機材の確保に努めているが、短時間の集中豪雨では職員数、交通状況により到着できない場合がある。事前の点検や災害時の応急対策とともに、きめ細かな状況把握に努めている。

◆公道の点検・管理体制はどのようになっているか。また、道路工事における



歩行者への安全対策と交通整理員への安全指導はどのように施しているのか

◆建設部長 毎月の道路パトロールやN.T.T、東京電力、日本郵便、市民からの情報で応急的措置や修繕で対応。安全対策は、法令の順守や現場管理の徹底を指示し、市民や歩行者が安全に通行できるように、交通整理員の適切な対応、分かりやすい交通規制に心がけている。

◆私道においては、市が関与することはできないことは承知の上で、せめて工事費の一部でも補助してもらえないか、との声があるが、この点はどうか。

◆建設部長 私道舗装整備に関する要綱を定めているが、砂利道の整備を優先しており、多くの道路が整備済みとなった段階で検討していく。

◆国保保険証カードの文字が小さいとの指摘がある。氏名と有効期限くらいは文字を大きくすることはできないか

◆保健担当部長 18年度からカード型の保険証に切りかえ、世帯で1枚から一人一人に1枚交付している。この保険証は埼玉県国民健康保険団体連合会仕様のもので、形、レイアウトなどは固定されており改善には制約があるが、文字の大きさなどを改めていく。